『大事な生活の支え』

町田市立町田第一中学校

三年

松林

穏

私は「税」について知識が豊富では無かったため、小学五年のときに町田市の運営している税サミットへ行きました。そこでは、身近にある消費税や市民税の説明をしてもらいました。私はその時、所得の多い人が少ない人よりも多くの税金を納めることを知りそれでは不公平だと感じました。その後スピーチで「所得の少ない人も少ないなりに負担してできる限りの公平性を保つべきだ。」と発言しました。私はこれを機にだんだんと税に対しての感心が湧いてきました。

次にここ最近の出来事である消費税の引き上げについてです。私は「税」と聞いたら一番最初に思い浮かぶほど親しみの深いのが消費税です。増税という側面だけ見れば不満に思ったり、がっかりする人も少なくはありません。実際に私の周りではこのニュースの話題になると、日用品が買いづらくなって嫌だ

などのネガティブな発言をする人が大半を占めています。しかし、私はそのようには思いません。なぜなら税は私たちが健康で豊かな生活を送るために役立っているからです。もし税が無ければ学校で無償で教科書を使うことができず、衛生環境の整った公共施設を使うことさえもできないかもしれません。私たちがこのような恵まれた生活を送るためにそれに値する援助費を出すのは当然だと思います。

最後に、私が自ら働いて社会人となって本格的に税を納めるようになったらどう向き合いたいかを伝えます。今の日本は少子高齢化が進んでいて、私が大人になる頃には更に深刻化されると予想されています。そうなると財政が支えられなくなってしまう可能性もあります。そこで、自分の生まれ故郷だけでも支援できるくらいの余裕を持っておきたいです。更には、自分が今こうして「税」について関心を持ったように次世代の子供たちが

「税」を知り未来の社会に貢献してくれるよう、自分の知識を最大限に伝えていきたいと思います。